

式 辞

日差しが日々やわらかくなり、命の躍動する春の訪れを感じる今日の佳き日に、平成三十年度 大阪府立桃谷高等学校 定時制の課程 多部制単位制Ⅲ部 後期卒業式を挙行了しましたところ、公私ご多用の中、大阪府教育庁 杉本 嘉文（すぎもと よしふみ）様、本校後援会会長 中井 政嗣（なかい まさつぐ）様 のご臨席を賜り、錦上花を添えていただき、高い所からではございますが、厚くお礼申し上げます。また、多数の保護者やご家族、関係の皆様のご列席を得ましたことは、卒業生はもとより本校教職員一同にとりまして心からの慶びであります。

ただ今、本校で所定の課程を修めました三十二名のみなさんに卒業証書を授与いたしました。卒業おめでとうございませう。保護者やご家族の皆様、本日はおめでとうございませう。心よりお祝い申し上げます。

さて、卒業生のみなさん、みなさんは本校に入学した時のことを覚えていますか。「中学校卒業後、何年もたってから入学した人」「一度他の高校に入学し、思いを新たに本校で学ぼうとした人」「一度本校に入学したものの続けることができず、再度入学した人」「入学までに不登校を経験した人」また「これまで勉強したくてもできず、ようやく勉強できるようになった人」など、年齢や入学までの経験は様々でした。しかし、「よし、桃谷高校で勉強しよう」と決意された人ばかりでした。それでも、期待と不安が入り混じっていたことだと思います。

入学から卒業に至るまで、色んな出来事や思いがあったことだと思います。卒業に向けてまっしぐらに頑張った人もいるでしょう。自分の弱さや置かれている環境に負けそうになり、学校を辞めたいという気持ちになった人もいるのではないのでしょうか。それでもみなさんは、入学したときの気持ち「高校を卒業したい」という思いを大切に、今日まで努力を重ねてきました。本校で学んだ期間が一年の人から六年の人まで、本校での経験も様々です。そして今日、卒業の日を迎えることができました。

みなさんの並々ならぬ努力と熱意に深く敬意を表します。先ほど、大阪府教育委員会賞、全国高等学校定時制通信制教育振興会

賞、大阪府高等学校定時制通信制教育振興会賞を授与しました。これは、それぞれの卒業生の本校での頑張りとその成果をたたえ、また今後の活躍を期待する賞です。しかし私は、ここにいる三十二名全てに対して、桃谷高校Ⅲ部での頑なりに、表彰状を送りたい気持ちでいっぱいです。

昨日、皆さんの書いた卒業文集をすべて読みました。涙をこらえるのに必死でした。みなさんがどんな思いで本校に入学し、どんな思いで学校生活を送ってきたのか、そして卒業を迎える今どんな気持ちでいるのかが、ひしひしと伝わってきました。「大嫌いだっただ学校が、桃谷高校に来て好きになった」「入学当初は周りの友達と比べて劣等感を覚えています。しかし、桃谷高校に通っている中で、そういった気持ちはだんだんと薄れていき、失敗してもやり直せるんだなあと思えるようになりました」「桃谷高校は本当の自分を見つけられる学校だと思います。自分がどういう人間かを教えてくれる学校だと思います」「生きるために必死だった。桃谷高校に出会ったのは69歳半を過ぎたころでした。幼いころ、学校に行く夢をよく見ました。その願いが叶いこんな喜びはありません」

みなさん、我々教職員は、みなさんの熱い思いに、その努力に応えることができたでしょうか。教職員の対応や態度を不満に感じたこともあるのではないのでしょうか。言い訳のようで恐縮ですが、教職員はその都度精一杯みなさんに関わってきたと私は信じています。みなさんを卒業に向けて支援するため、時には厳しく、時には優しく、心から「みなさんの頑なりにを応援したい」という思いで接してきたと思います。

みなさんは今日で高校という場を離れることになります。ここで、最後に私から一つ話をします。

これは少し前に私が読んだ、「走れ！移動図書館」という本の話です。平成二十三年三月十一日、東北地方を中心に大規模な地震がおこり津波が発生しました。大勢の人がお亡くなりになりました。のちに東日本大震災と呼ばれるようになりました。みなさんの記憶にも残っていることだと思います。「走れ！移動図書館」という本は、この震災の復興に尽力したボランティア団体の鎌倉幸子さんという人が書いた本です。震災から数か月後、鎌倉さんを中心に、被災した人の心の回復のために、車に本を積んで仮設住宅などを回る移動図書館を始めます。「大好きな本が流されたけど、ここでまた読めるよ」「こんな時こそ、子どもたちに本と出合わせたい」など、利用する人からたくさん言葉が返ってきました。

この本の「おわりに」に次のように記されています。

本は、アイデアやアドバイスをくれます

未来に向けた道を照らす、一筋の光になります

本は、自分の根っことなる文化を伝えてくれます

故郷を支えると、故郷が支えてくれる

本は、笑いを届けてくれます

思いっきり笑えばすっきりと

本は、泣きたいときにそっと背中を支えてくれます

涙と一緒に、心のつかえも流れていきます

本は、選択肢の中から選ぶ力を与えてくれます

一つだけの情報源に頼って大丈夫ですか。いろんな側面から見てみると、新しいことを発見することもありますよ

本は、普遍の真理を見つけ出すヒントをくれます

感性を高め、疑問を疑問としてとらえ、それは正しいのかを判断する背中を押してくれます

情報が多くて見つからない？

見つかるまで、何度も、何冊も、開けばいい

人生の目的を見つけ、そこにたどり着くための道しるべに、本はなっています。

ここではすべて「本は」で文章が始まっています。私はこの本を読んで、みなさんにとって「本は」が「桃谷高校Ⅲ部は」であってほしいと思いました。桃谷高校Ⅲ部はみなさんに、「未来に向けた道を照らす、一筋の光」になっていたでしょうか、「自分の根っことなる文化を」伝えることができたでしょうか。「人生の目的を見つけ、そこにたどり着くための道しるべ」になったでしょうか。不十分なところはあったかもしれませんが、みなさんの道しるべに少しはなれたのではないかと思っています。

みなさんは今日桃谷高校Ⅲ部を卒業します。これからは、桃谷高校Ⅲ部がみなさんに「アドバイス」をしたり、「笑いを」届けたり、道しるべになったりすることはありません。これからは、桃谷高校Ⅲ部で身に付けた力を最大限発揮し、自分の力でしっかりと前を向いて歩んでください。人生の目的を見つけ、自分の力でそこにたどり着いてください。桃谷高校Ⅲ部を卒業するみなさんならきっと大丈夫です。大きく羽ばたかれることを期待しています

みなさんの今後ますますのご健康とご活躍を心より祈念して、

式辞といたします。

平成三十一年三月七日

大阪府立桃谷高等学校
定時制の課程
多部制単位制Ⅲ部
准校長 稲垣 靖